

関係人口創出・拡大事業（関係深化型・関係創出型）モデル事業 成果報告会 開催レポート

1. 開催概要

2020年2月17日に、「関係人口創出・拡大事業（関係深化型・関係創出型）成果報告会」を、品川フロントビル会議室にて開催しました。

成果報告会では、本年度、関係人口創出・拡大事業の関係深化型・関係創出型で採択されたモデル団体が一堂に会し、本年度モデル事業の成果について報告するとともに、モデル団体と当日参加者の皆様の情報交換の場として名刺交換会を開催しました。

当日はモデル団体に加え、全国各地から170名の方々が参加され、モデル団体の成果発表に熱心に耳を傾けられていました。名刺交換会においても、モデル団体や参加者同士で活発に意見や情報が交換され、事業に対する関心の高さが窺われました。

<会場の写真2枚>



2. 成果報告会の内容

【開会挨拶・概要説明】

一角田 秀夫（総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 課長）

冒頭、主催者である総務省より、開会挨拶および「関係人口創出・拡大事業」の背景や概要についてご説明しました。



【モデル団体の成果報告】

成果発表は、モデル団体が2つの会場に分かれて登壇し、事業成果を報告しました。各会場では、関係人口や中間支援機能、地域づくりに関する知見を有する有識者の方をお招きし、モデル事業担当者との質疑応答及びモデル事業に対する講評をいただくとともに、来場者との質疑応答を行いました。

各会場の様子をご紹介します。

○会場1 (Room1)

<登壇モデル団体>

時 間	14E
13:50～14:20	村上市 [新潟県]
14:20～14:50	燕市 [新潟県]
14:50～15:15	長浜市 [滋賀県]
15:25～15:55	五ヶ瀬町 [宮崎県]
15:55～16:25	坂井市 [福井県]
16:25～16:50	陸前高田市 [岩手県]
17:00～17:30	長岡市 [新潟県]
17:30～18:00	山梨県
18:00～18:25	志布志市 [鹿児島県]
18:25～18:40	講評、全体質疑

<有識者>

稲垣文彦氏 (公益社団法人中越防災安全推進機構 統括本部長)

田口太郎氏 (徳島大学総合科学部 准教授)

会場1 (Room1) では、関係深化型 (地域との関わりを持つ者のうち、その地域にルーツがある者等又はふるさと納税の寄附者に対して、地域と継続的なつながりを持つ機会を提供する取組) にて採択された上記モデル団体より、地域外の若者たちと地元の主婦など地域住民とが協働して通年型の農業体験等を実施する取組や、地域の出身者を中心とした在京コミュニティと連携して体験型ツアーを造成する取組、県立の全寮制中高一貫校の卒業生等を対象とした地域資源を活かした関係人口創出プランコンテストを開催し地域でプランを実践する取組などが紹介されました。

また、有識者の方々から以下のとおり講評を頂きました。

稲垣文彦氏（公益社団法人中越防災安全推進機構 統括本部長）



- ・モデル事業のテーマに多様性が生まれており、さらに広がるとよいと思う。
- ・関係人口の取組は、3年、5年と続けていく中で見えてくるものがあると思うため、今後も事業を継続してほしい。
- ・関係人口の取組に対し、地元の人に理解してもらい、参加して楽しいと思ってもらうことが非常に重要。
- ・今後、地域課題の解決や地域づくりに関係人口をどう活かしていくのかが問われる。
- ・外の人が入ることで地域の魅力や課題が写し出される「交流の鏡」効果によって、地域住民が主体的に動き出して、活動人口になる。この町が好きだから、という理由で主体的に取り組んで課題解決が進んでいく。さらに、活動人口の取組が共感を呼び、また関係人口が増えるという正のスパイラルが大事。

田口太郎氏（徳島大学総合科学部 准教授）



- ・各モデル団体が、観光事業の発想ではなく、どのように関係人口の力を呼び込むのか、あるいは地域がどのように変わるのかということに着目しており、事業が良い方向に進んでいる。
- ・関係人口のターゲットとして、東京や大阪だけでなく、近隣の都市にも目を向けてほしい。
- ・数値目標については、数値だけを追わずにその先にある目標を意識しておくことが重要である。また、SNSの会員数等、インターネット上の数値目標は、数十万人といった大きな単位でないと影響はほとんど出ない。人数の数値を大きく伸ばすことに加えて、いわゆる「打率」を向上させる工夫も必要。

- ・関係人口として関わる動機は、対価ではなく、地域から感謝されたい、あるいは地域に喜んでもらいたいという気持ちによる関係が、長期的に見て非常に重要と思われるため、企業の CSR を手掛けるような社会貢献の部門にはもっと目を向けたほうがよいのではないか。

○会場 2 (Room2)

<登壇モデル団体>

時 間	14E
13:50~14:20	秋田県
14:20~14:50	矢祭町 [福島県]
14:50~15:15	横瀬町 [埼玉県]
15:25~15:55	館山市 [千葉県]
15:55~16:25	根羽村 [長野県]
16:25~16:50	鳥取市 [鳥取県]
17:00~17:30	いちき串木野市 [鹿児島県]
17:30~18:00	泰阜村 [長野県]
18:00~18:25	三木町 [香川県]
18:25~18:40	講評、全体質疑

<有識者>

伊藤淳司氏 (特定非営利活動法人 ETIC. ローカルイノベーション事業部長)

瀬沼希望氏 (特定非営利活動法人 ETIC. ローカルイノベーション事業部コーディネイター)

坂倉杏介氏 (東京都市大学都市生活学部 准教授)

会場 2 (Room2) では、関係創出型 (これから地域との関わりを持つようとする者に対し、地域の課題やニーズと、関係人口となる者の想いやスキル・知見等をマッチングするための中間支援機能を形成し、地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供する取組) にて採択された上記モデル団体より、豊富なスキルや経験を持つ首都圏の社会人が、地域課題の解決に資するプロジェクトを提案する取組、地域のコミュニティスペースを舞台に「学びの機会」を提供し、子どもから大人まで多世代がふれあいながら、ワクワクする時間と体験を共有する取組、外部視点のユニークな発想を導入しながら、地元で活動する人とのつながりを創出する取組などが報告されました。

また、有識者の方々から以下のとおり講評を頂きました。

伊藤淳司氏（特定非営利活動法人 ETIC. ローカルイノベーション事業部長）



- いずれなくなるお金を使って事業を実施しているので、どうやって継続していくのか考えていかなければならない。ポイントは関係人口が地域に関わる理由、役割をどう作るか。地域によってはある程度パターン化することができるのではないかな。
- 関係人口の地域における役割がイメージできたら、SNS も含めてターゲットを思い切って相当絞って発信していくことがポイント。
- 関係人口の受け皿となる中間支援機能の人たちの事業の立ち上げ方、ビジネスモデル、価値提供や事業内容、ビジネスモデルをどのように作るかがポイント。

瀬沼希望氏（特定非営利活動法人 ETIC. ローカルイノベーション事業部コーディネーター）



- 地域側として、関係人口に何をやってもらうのか、関わりたいと思ってもらえる余白をどのぐらい地域側で作り出せるか、腕が試されている。
- 地域側の余白を作ることは、役場の方、行政の方が中心に担っていると思うが、地域の可能性やビジョンを発掘して、外に発信していくスキルや能力を誰が担うと良いのかは、地域ごとによく考える必要がある。

坂倉杏介氏（東京都市大学都市生活学部 准教授）



- ・ 1年間、トライアルを重ね、フィードバックを相談し、結果として1年前にはなかった関係性が、それぞれの地域でどんどん生まれているということで、本当に良かった。
- ・ 通常の行政の仕事とは違った形の関係ができることで、地域のいろいろな違う視点が得られていく関係性が生まれていくのではないかと。

【閉会挨拶】

Room1ー角田 秀夫（総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 課長）

Room2ー三好 健太郎（総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 課長補佐）

最後に、主催者である総務省より、閉会挨拶および来年度事業概要についてご説明を行いました。

【名刺交換会】



成果報告会の終了後、モデル団体と一般参加者の方々を交えた名刺交換会を実施しました。

当日の来場者に加えてモデル団体、有識者の方々も参加し、活発な意見・情報交換の場となりました。

以上